

平成28年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人奈良女子大学

1 全体評価

奈良女子大学は、女子の最高教育機関として、広く知識を授けるとともに、専門の学術文化を教授、研究し、その能力を展開させるとともに、学術の理論及び応用を教授、研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的としている。第3期中期目標期間においては、①古都奈良に生まれ育まれた日本文化の洞察を通じ、ローカルかつグローバルに活躍できる女性リーダーを育成すること、②基礎物理学・分子科学・基礎生物学・高エネルギー物理学を中心に理工系諸分野の研究を進め、女性リーダー育成モデルを構築すること、③新たなライフスタイル創造の教育研究拠点を形成し、担い手としての女性リーダーを育成することを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、地域志向体験型学修プログラムを充実させるとともに、女子学生の興味・関心を惹起する理数教育モデル確立に向けた取組を実施するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成28年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 「理系女性ハードリング支援プログラム」では、お茶の水女子大学、奈良教育大学、甲南大学、芝浦工業大学の平成28年度入学者約2,000名を対象とした「進路選択に関する意識調査」や、奈良県下高校生約1,100名を対象とした「教科に関する意識調査」の結果に基づき、女子学生の理数系科目の選択が少ない原因を分析し、女子学生が「魅力」を感じる理数系教育の確立に取り組んでいる。（ユニット「文理を超えた幅広い視野を持ち世界に通用する女性リーダーの育成」に関する取組）
- 海外協定校からの交換留学生等を戦略的に受け入れるため、一人あたり15万円を上限として渡日旅費及び帰国旅費を支給する制度を確立したことなどにより、受入れ留学生総数は、167名に増加（平成27年度：147名）している。さらに、日本人学生の海外留学を積極的に推進するため、奈良女子大学なでしこ基金派遣留学奨学金や理学系学生海外短期留学支援制度により支援を行った結果、派遣留学生数は中期計画に掲げる目標数を上回る103名となっている。（ユニット「大和・紀伊半島から世界へ、世界から大和・紀伊半島へ、教育研究のグローバル化の推進と地方創生」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載16事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 事務組織体制の強化によるIR活動の推進

IRを推進する体制を強化するため、学長調査戦略室と一体となってIRを推進するための事務組織を整備している。学長調査戦略室等が実施した、卒業・修了した学生を対象としたアンケート調査等の分析を大学院博士前期課程改組計画の根幹となる教育プログラムの設計に活用しているほか、同室で作成した学生に関する情報（学生一人一人の入学前から卒業までを一本化した情報）を材料に、アドミッションセンターにおいて高大連携特別教育プログラム及び特別選抜の改善に向けた検討を進めている。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載10事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載2事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載13事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 地域志向体験型学修プログラムの充実

学生が地域の中に入り、そこで地域の課題を発見し調査・研究する体験型学修プログラムを教養教育・キャリア教育の一環として確立するため、学生の地域への関心を深め、地域志向の涵養を図る「地域志向科目」29科目を開講し、延べ916名の学生が受講している。加えて、学生の地域への関心を喚起するとともに、地域をフィールドに卒業後の多様な働き方を想起させることを目的に、学生向けセミナーを4回開催し、延べ282名の学生が参加している。

○ 学生データに基づく入試制度改革の推進

学問研究に必要な感性、主体性、学力等を総合的に判定できる入学者選抜方法を研究・開発するため新設したアドミッションセンターでは、学長調査戦略室と連携し、学生一人一人の入学前から卒業までを一本化した情報に基づき、特別入試による入学者について、量的・質的な分析を実施している。分析の結果、入学前の課題の工夫が円滑な高大接続に有効に機能していることが確認されたことから、高校と大学の教員の緊密な連携が有効かつ重要であることなどを念頭に入試改革を進めている。

○ 女子学生の興味・関心を惹起する理数教育モデル確立に向けた取組

「理系女性ハードリング支援プログラム」では、お茶の水女子大学、奈良教育大学、甲南大学、芝浦工業大学の平成28年度入学者約2,000名を対象とした「進路選択に関する意識調査」や、奈良県下高校生約1,100名を対象とした「教科に関する意識調査」の結果に基づき、女子学生の理数系科目の選択が少ない原因を分析している。その結果に基づき、理系・文系の学生を問わない教養としての理数系科目の開講や、理科と数学が融合した授業案と教材案の作成を附属中等教育学校において行うなど、女子学生が「魅力」を感じる理数系教育の確立に取り組んでいる。